

顎・口腔インプラント手術学実習（河奈裕正）

Training of Oral and Maxillofacial Implantology (Hiromasa Kawana)

キーワード

- ①科学
- ②研究
- ③歯科インプラント学
- ④顎顔面インプラント学
- ⑤医工連携

授業概要

大きく二つの実習に分ける。一つは、解剖学、病理学、医化学、生理学、発生学に基づく、実験計画、in vitroの実験方法の基礎を学び動物実験に関わる基本手技を身に付けること、他の一つは、医工連携による研究、開発に関わる理工学の基本を実習することである。現在、当該分野ではこれらの実習機材が充足されていないため、学内外の教室での出向実習を行う必要もある。その他、歯科インプラント臨床学に関わるコンピュータ・シミュレーションや模型実習を行う。

授業科目の学修目標

顎・口腔インプラント学は、失われた顎口腔機能を回復し、健康に過ごすための予防医療の構築、健康増進までをも包括する学問であり、実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ①科学的研究の立案方法を教授する。 12コマ
- ②歯科インプラント研究、顎・口腔インプラント研究に必要な解析手法を教授する。 12コマ
- ③歯科インプラント学に必要な動物実験法を教授する。 12コマ
- ④顎顔面インプラント学に必要な動物実験法を教授する。 12コマ
- ⑤医工連携に必要な理工学的実験を教授する。 12コマ

実習担当教員 河奈裕正

教科書および参考書

吉成正雄著 インプラント材料Q&A 臨床の疑問に答える マテリアル編/クリニカル編、医師薬出版、2017

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習前に、実習内容を指導教員に確認し、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 科学的研究計画の立案ができる。
- ② 歯科インプラント研究、顎・口腔インプラント研究に必要な基本的な実験方法、解析手法を実践できる。
- ③ 歯科インプラント学に必要な動物実験ができる。
- ④ 顎顔面インプラント学に必要な動物実験ができる。
- ⑤ 医工連携に必要な理工学的実験ができる。

評価

| 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | 口頭試問 | 実技 | その他 |
|-----|------|------|------|---------|------|-----|-----|
| 20% | 0% | 40% | 0% | 0% | 0% | 40% | 0% |

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

顎・口腔インプラント学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。